

大いなる背教

マイク・ゴレイ

- パウロがテサロニケ教会に警告した背教とは何か？ -

<https://youtu.be/bSVPo3rynj0>

シャーロム。マイク・ゴレイ、ビホールド・イスラエルの事業運営責任者です。テサロニケ人への手紙2章で言及されている「大いなる背教」について、お話したいと思います。まずは、私に起こったちょっとした出来事をお話しして始めます。

数年前、私は、車のオイル漏れに気づきました。もちろん、オイルが漏れるのは良くありません。絶えずオイルを足さなければならぬのも良くありません。それは、シール材とエンジンとパッキンの間に裂け目がある事を意味しますから。最初は、数滴の漏れから始まりましたが、やがて、大量に漏れるようになりました。それで、私は、週に1リットルくらい入れていたと思います。しばらくして、私はその状態に慣れてしまいました。面倒臭くてイライラしましたが、それでも、その車は古くて、お金をかけたくなかったので私は修理に持って行きませんでした。それが、ある日、皆さん、シール材の一部が壊れ、オイルが漏れ出て、道中、ガソリンスタンドに立ち寄って、オイルを入れなければ、数マイルも進めなくなりました。翌日、起きると、オイルの大きな水たまりがあって、私の朝一番の仕事は、車に1リットルのオイルを入れる事。1リットルです！そして運転しました。

さて、非常に同じような意味合いで、このたとえを使いたいと思います。テサロニケ人への手紙第二、それから、新約聖書の時代全体を通して、漏れがあり、裂け目があり、悪用がありました。多くの偽の教えがあり、多くの誤って導くような情報がありました。そして、それは教会にとって脅威だったのです。新約聖書全体に、その証拠が見られます。常に確かな教義、真理を保守する事、使徒たちは、これを強調し、決してゆずりませんでした。しかし、聖書のこのくだりにはこう書いてあります。これが、私が先ほどのたとえを、文脈上、用いた理由です。パウロは、来たる日の事を言っています。現在、多くのオイル漏れがあり、多くの偽の教えがあり、多くの背教、確かな教えへの背きが多くあり、それが、本当にエンジンに損害を与え、それらが、イエスのからだである教会に、ものすごいダメージを与えていますが、それでも、来たるその日には、大規模な背教が起こり、大規模な反逆さえ起こります。私が話そうと思うのは、神の真理への背き、確かな教えへの抵抗、良質な教義からの“出発”です。テサロニケの人々の状況は、パウロが書いた時、実際に起こっていた事を少し説明しますと、彼らは、とてもワクワクしていたのです。信仰に至り、パウロは主の来臨について語り、彼は興奮ぎみに、携拳について、イエスと空中で会う事について語りました。この人たちは、持ち物を売り払っていたのです。中には、自宅の屋根の上で、イエスを待っていた人もいたかも知れません。学者の文献を読むと、その中に証拠があります。中には仕事を辞めた人たちもいて、そして、生活の全てを、主の日に備えるために費やしていたようです。それは、ある教えに対する過剰反応である事を、私たちは知っています。そしてパウロは、バランスを取るよう導きました。しかし、この人たちは、二番目の手紙が書かれたときは、まだ、主の日への理解に混乱がありました。事実、後に説明しますが、彼らは、実際に、自分たちが大患難の中にいると信じていたのです。彼らは、携拳を逃してしまったと思っていました。彼らは恐れ、不安になり、事態を悪化させてしまいました。彼らはそれを偽の教師から学びました。彼らは、悪い教えから学んだのです。そこで、彼らにとって、それがどういうものだったのか、そして、聖書に照らして、現在私たちがどういう状況にいるのか、私たちがどこに向かっているのかの方向性をご説明したいと思います。

この話題を始めるにあたって、皆さんには、聖書を手に取り、第二テサロニケ人への手紙2章を開いてもらいたいと思います。

「偽の教えが急増する」

今日の第一のポイントは、来たる日には「偽の教えが急増する」偽の教えが急増します。エンジンからのオイル漏れの急増によく似ています。私の車のエンジンからは、ずっとオイルが漏れていましたが、そこまで酷くはありません。今までも偽の教えはありましたが、これから世界中に起こる程のものではありません。第二テサロニケ人への手紙2章1-2節にあるように、

「さて、兄弟たち。私たちの主イエス・キリストの来臨と、私たちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたにお願いします。霊によってであれ、ことばによってであれ、私たちから出たかのような、手紙によってであれ、主の日は、すでに来たかのように言われるのを聞いても、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。」（IIテサロニケ2:1-2）

皆さん、このように偽の教えがありました。既に、当時からあったのです。彼らは言いました。「知ってました？もうその最中なんですよ。」そして、“トラクター・ビーム”のように、彼らには、人々を吸い寄せせる力がありました。同様に、多くのカリスマ的なペテン師の教師たちは、度々、実際の使徒の名前を使って、自分の言うことに、人々が耳を傾けるように仕向けます。彼らは、人々の注意を引くためなら、どんな手段でも利用します。それで、みんな混乱していました。「誰を信じたらいいんだろう？」「どのレポートを信じるべきで、どの教師を信じたらいいんだろう？」「この人の言うことは、筋が通っているように思える。」「この人は確信に満ちて語っているようだ。」「誰を信じるべきか？」パウロがこの手紙を書いたのは、彼らのたましいに、平安と休息を与えるためでした。そして、彼らが神の真理に確信を持つように。彼らは、自分たちがすでに大患難時代にいると、誤って信じていました。言い換えると、主の日はすでに来たのだ、と信じたのです。ご存じかもしれませんが、「主の日」「終わりの時」とは、イエスの二度目の来臨を指しています。それは、携挙から始まって、再臨で終わります。彼らは、それを一回の出来事、一つの概念と見なしたのです。それで、彼らは、自分たちは携挙を逃してしまっただけで済んだ、と信じたのです。そんな事態に置かれたら、本当に恐ろしいですよ。周りを見回して、自分はまだ地上にいながら、思うのです。「自分は逃してしまっただけか？一生懸命努めて来たのに。」何人かは、この事に非常に時間を費やして、仕事を辞め、この、主の日についての教えに、自分たちの生活を全て注ぎ込んで、逃す訳にはいかなかったのです。しかし、多くが、自分たちは逃したと思いました。皆さんが、このように揺さぶられたり、煽られたりそういう経験があるかどうか分かりませんが、あるいは、迷わされたり・・・ギリシア語では、“サルセネイ”と言います。それは、単純に、「ぐらつく」「揺り動かされる」「疑う」「疑問に思う」「何かに対して不安になる」といった意味です。私にとっては、色んなユーチューブ動画があって、それを見ますが、私の場合、フェイスブックやインスタグラムの動画がいつも転送されて来ます。「マイク先生、これを見てください！重要なんです！」私は、いくつか見ますが、非常に長いものもあります。そして、非常に説得力のある立証をする動画も、たくさんあります。それらの多くが、聖句を現代的に解釈していて、時々、私は揺れ、疑問に思いません。この人は、真実を話しているのだろうか？と。

数年前、私がイスラエルに住んでいた時、何人かのラビたちに会った事があって、私は、このラビたちと信仰を分かち合いたいと思い、イザヤ書52章と53章を開きました。そこには、主の「苦難のしもべ」の事が、書かれています。私は、それは、他でもないイエスの事だと信じています。「苦難のしもべ」である、メシア。ラビたちは、私を見て笑いました。彼らは言いました。「ハッハッハッハッハ、ハッハッハッハッハ。これはイエスの事ではない。前の章をさかのぼって読めば、これはイスラエルの民の事だと分かるはずだ。これは、苦しんだイスラエルの民の事だ。」私は、そこを読んでみました。すると、前の章では、そう書かれていました。それで、私は揺れました。迷って、揺さぶられたのです。私は、どう反応すればいいか分かりませんでした。当時は若くて、ヘブライ語もよく知りませんでした。私はやっとの事で言いました。「私は、これがイエスの事だと信じています。あなたのおっしゃった事も、少し考えてみますが。」私は、彼らに、福音を伝えられずに立ち去りました。彼らが私に伝道したのです！そして私は立ち去りました。尻尾をまいて逃げる犬のように。負けた、恥ずかしい、と感じながら。でも、私は勉強を始めました。聖書を読み始め …いや驚きました。見つけたのです。「苦難のしもべ」はイエスだと。彼は、イスラエルのテーマから始め、それをイスラエルから始めて、「究極のしもべ」に至ったのです。イスラエルは“しもべ”でしたが、

イエスは”究極のしもべ”であり、メシアなのです。聖句には、明確に、彼は自分の民の為にご自分のいのちを捨てる、と書かれています。私はとても感動しました。私は、自分の目で真実を見れたのです。私は、あのラビたちの電話番号を聞いておけば良かった、と思いました。路上で自然に出会ったので、私は、彼らの住所も勤務先も知らず、彼らを追うことは出来ませんでした。私の信仰は、もはや揺るがされる事はありません。なぜなら、私は神のことばを読んだからです。そして、私はまた、とても親しい、信仰深く聖書を信じる教師に相談しました。

皮肉なことですが、私たちが今日体験していることは、当時、彼らが体験したのと同じなのです。そして私たちも、まさに彼らと同じように、神のことばに対する確信が必要です。特に、やがて全世界に訪れる、大いなる背教という点について。とは言え、聖書はここで、3つの方法があると告げています。偽のニュース、偽の教え、偽の導きが現れる、と。パウロは言いました。第一に、霊的なもので、彼はここに書いています。

「霊によってであれ、ことばによってであれ、私たちから出たような手紙によってであれ、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。」 (IIテサロニケ2:2)

霊について、手短かに話してみましょう。霊は、ギリシア語で「ヌマトス」と言います。英語で「空気」を意味する“pneumatic”という言葉の由来です。例えば、圧縮空気で作動する空気式の (pneumatic) 釘打ち機といったように。この同じ言葉が、第一コリント人への手紙1章10節で、預言の賜物や、人を通して語られる神の御霊として使われています。今回の場合は異質の霊で、その異質の霊が、人々を使って偽の預言、偽の霊 (ヌマトス) を伝えるのです。ですから、これは、人々に、偽の教義を信じ込ませるための手段の一つです。興味深いことに、ヨハネの手紙第一の4章1-3章には、こうあります。

「愛する者たち、霊 (ヌマトス) をすべて信じてはいけません。偽預言者がたくさん世に出て来たので、その霊 (ヌマトス) が神からのものかどうか、吟味しなさい。」 (Iヨハネ4:1)

ここで起こっていることを、完璧に表しています。偽預言者が、主の日についての偽ニュースを広めていたのです。そして二番目に、「ことば」があります。霊があり、ことばがあります。ことば、という単語は、古典ギリシア語で、“ロゴ”または“ロゴス”と言って、文法上の語形変化で決まります。それは、色々な文脈の中で、メッセージそのものを意味します。述べ伝えられている実際の説教の内容そのものです。あるいは、教えや垂訓も含まれるでしょうが、内容の「ことば」そのものです。ですから、彼らは、偽の内容、「ことば」を受けていたのです。そして、三番目の手段があって、これが、とても深刻なもので、手紙です。それは、コミュニケーションを取る主な方法の一つでした。当時の世界の人々は、書簡、手紙を用いました。そして、たくさんの偽の書簡や手紙があり、有名な使徒たちの名前を用いて書かれていました。人々に読ませるためです。笑ってしまうのが、このビホールド・イスラエルでも、ほぼ毎週のように、ビホールド・イスラエルの偽サイトを見つけます。私の義理の兄弟アミールのサイトの、偽装サイトです。これらのサイトを閉鎖させるのは、大体は単純なプロセスですが、時に、骨が折れる事があります。でも、一番辛いのは、多くの人々が引っ掛かって騙されていることです。これらのサイトは、あるものはお金目当てであったり、もしくは、私たちが教えていない事を教えたりしています。そして、私たちの所に、心配した人たちからたくさんのメールが届くのです。それが、見てください。インターネットが無くて、二千年前にも同じ事が起こっていました。ですから、彼らは心配し、ストレスが溜まっていました。実際、この書簡の一番最後の、3章17節で、パウロはこう言っています。

「私パウロが自分の手であいさつを記します。これは、私のどの手紙にもあるしるしです。このように私は書くのです。」 (IIテサロニケ3:17)

パウロは、この方法で、彼らに伝えていたのです。これは偽物ではない、本物だ、と。ですから、皆さん、今日の最初の要点は、これから、偽の教えが急増します。そして、彼らは、それを紀元1世紀から経験していました。私の車には、オイル漏れがありました。でも、大量の漏れが起こるには、時があったのです。

さて、今から二番目の要点に移りたいと思います。

「大いなる背教と、反キリストの現れがある」

「大いなる背教と、反キリストの現れがある」テサロニケ人への手紙第二章3-4節には、こうあります。
「どんな手段によっても、だれにもだまされてはいけません。まず背教が起こり、不法の者、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日（私たちが主と会う日）は来ないのです。」（Ⅱテサロニケ2:3）

ここではESV（EnglishStandardVersion）を使いました。他の訳文もあって、後ほど、それもお話します。

「まず背教が起こり、不法の者、すなわち滅びの子が現れなければ、不法の者は、すべて神と呼ばれるもの、礼拝されるものに対抗して自分を高く上げ、ついには自分こそ神であると宣言して、神の宮に座ることになります。」（Ⅱテサロニケ2:3-4）

これが反キリストである事は、明白です。さて、ここにジレンマがあります。彼らは、自分たちが大患難時代の中にいると思っていました。でも、大いなる背教、背きは、まだ起こっておらず、過去のもの、さほど変わりませんでした。それだけでなく、不法の者が現れておらず、それで彼らは周囲を見回して、「誰だ？誰だ？」と探していました。「もし私たちが大患難の只中にいるなら、既にそれを見ているはずだ。」彼らは、ある事を忘れていました。パウロは、そこに滞在したことがあり、彼らを教えたのです。パウロは、テサロニケ人への手紙第一を書きました。後から見ますが、多くの事について語っていて、彼らは、その場にいたのです。そこでパウロは、それを思い出させようと、言いました。

「もし、あなたがたが大患難期の中にいるなら、大いなる背教と不法の者はどこですか？覚えていますか？これは起こるはずなんですよ？大規模な背教が起こるはずなんです。それから、反キリストが現れるはずなんです。これが、本当に重要な事です。信じてください。彼がする事を見てください。彼はすべて神と呼ばれるもの、礼拝されるものに対抗して自分を高く上げ、神の宮に座り、自分こそ神であると宣言するんです。もちろん、これらの事は、大患難期の中間で起こります。でも、ご存じのように、彼は、大患難期の初期に、イスラエルと平和条約を結びます。ですから、少なくとも彼の事が、明らかに分かったはずですよ。」

でも、彼らはそれを見ていないので、大患難期の中にいるはずはありません。パウロは、彼らに対して、一種のショック療法を行ったのです。「もしもし！起きて！起きなさい！あなたがたは大患難時代の中にはいません。誤りを教えられたのです。」ビホールド・イスラエルのフォーラムの中で、私たちが教えている時に、時々言われることがあります。「私たちは既に大患難期にいるんです。」ですから、こんにち、私たちの一部が苦心している事は、テサロニケの人々が苦心したことと同じなのです。さて、パウロが、ここで用いた単語ですが、それは、少なくとも私の訳文では、「背き（rebellion）」です。他の訳文では、脱落（fallingaway）、離脱（departure）となっています。ギリシア語では、実際は“アポスタシア”という単語です。「なぜ、“アポスタシア”が“背教（apostasy）”を意味するのか」今から、スライドを出して、このテーマを扱いたいと思います。それから、これについて立証、解説します。

これが、実際に背教（apostasy）を意味していると私が信じる理由。なぜ、アポスタシアが、背教（apostasy）を意味するのか、この単語は、背く（turningaway）、離脱（departure）、を意味します。このケースでは、背教（rebellion）は、こうです。「いえ、私は、それには一切関わりたくありません。反対の方向に行きます。抗議（プロテスト）してでも。」

それで、これが実際に、背教（apostasy）だと私が思う、最初の理由は、

「A. 聖句の文脈」

「A. 聖句の文脈」です。これまで私たちは、彼らが欺かれ、誤って導かれたことを見てきました。いいですね？パウロの最初の手紙や、パウロとの直接の対話の後、もし彼らが正しく理解していなかったのなら、

この叱責を受けて彼らは、頬を叩かれたように感じたことでしょう。「叱責」と言うのは、厳しすぎるかもしれません。「厳しい注意」というべきでしょうか。

「ちょっと待ってください。大いなる背教や、始まりとなる反キリストの現れといった、これらの出来事は、大患難の中で起こることです。もし、あなたがたが大患難の中にいるなら、既に知っていて、見ているはずですよ。あなた方が見てないから、違うのです。」

その後、9～12節では、文脈を見ると、ここは、大規模な欺きのことを語っているのです。同じ章の、9～12節では、彼は、欺きについて語っています。その節に行って、読んでみましょう。

「不法の者は、サタンの働きによって到来し、あらゆる力、偽りのしるしと不思議、また、あらゆる悪の欺きをもって、滅びる者たちに臨みます。彼らが滅びるのは、自分を救う真理を愛をもって受け入れなかったからです。」（Ⅱテサロニケ2:9-10）

この部分は、背き（rebellion）という訳が、よく当てはまります。

「それで神は、惑わす力を送られ、」なぜなら、彼らがそう選んだからです。「彼らは偽りを信じるようになります。それは、真理を信じないで、不義を喜んでいたすべての者が、さばかれるようになるためです。」（Ⅱテサロニケ2:11-12）

ですから、ここの文脈からは、これが背教（apostasy）である事を示しています。さて、ここで少しだけ立ち止まらしましょう。中には…、彼らは、主にある私の兄弟たちで、私は彼らを愛しています。私たちは一緒に時間を過ごしますし、ボーリングに行ったり、一緒に活動もします。しかし彼らは実際に、アポスタシアを、単純に離脱（departure）だと信じています。そして、脱落（fallingaway）や背き（rebellion）でなく、彼らは、それは携挙の事だと信じています。さて、私は、患難前携挙説を信じていますから、こう言えるのはワクワクしますが、この単語が・・・実際に携挙を意味していると言えると、私にとっては、本当に嬉しい事です。その論理が分かりますか？もしこの単語が離脱（departure）を意味するのなら、こんな風に言えるのです。「教会は、大いなる背教の前に、反キリストが現れる前に出発（departing）し、それから、大患難が来る。」どれくらい当てはまるか分かりますね。患難前携挙説の立場としては、こう解釈するのは、とても好ましいです。でも、良心の呵責から、私にはできません。皆さん、すでにご存知の通り、第一の理由が、この聖句の文脈であることは説明しました。文脈上これが語っているのは、欺き、嘘、騙し、そして大規模な真理への抵抗、後には、それが反キリストを通して明らかにされます。さて、私はあの見解を尊重します。彼らが、あの結論に至った理由も分かります。でも、私があポスタシアは背教（apostasy）だ、と信じる理由は、文脈だけではないのです。

「B. 他の箇所です使われる“アポスタシア”。」

B. 他の箇所です使われている“アポスタシア”。ところで、聖書だけではなく、今から引用しますが、他の文献にもあるのです。最初は、もちろん、ギリシア語の新約聖書です。使徒の働き21章21節で、アポスタシアという単語が用いられています。ここで、使徒たちが、ユダヤ人から糾弾されています。彼らが、モーセの律法を捨てるように説いた、という理由で。それは間違いですが。ここでは、“アポスタシア”という言葉は、モーセの律法から「離れる」こと、「立ち去る」ことを意味しています。「抵抗」や「脱落」という意味すらあります。「逆らう」という意味も。他に、ギリシア語の新約聖書で、“アポスタシア”という単語があるのは、ここだけです。しかし、興味深いことに、ヘブライ語聖書のギリシア語翻訳である、70人訳聖書を見ると、旧約聖書で、“アポスタシア”という単語が実際に使われています。「70人訳聖書（LXX）」（ヨシュア22:22, Ⅱ歴代誌29:19, エレミヤ2:19, マカバイ2:15）そして、70人訳聖書（LXX）では、ヨシュア記22章22節で使われています。このヨシュア記22章22節をギリシア語の70人訳聖書で読んでみると、興味深い事に、ここでは、完全に背き（rebellion）の意味です。ヘブライ語の背き（rebellion）、を訳する

のに、アポスタシアが用いられています。それから、歴代誌第二では、アハズ王が「不信の罪を犯し」ました。彼らが、主の宮の器具を整えようとしていた時に言っています。

「アハズ王が、その治世に、不信の罪を犯して (resisted) 取り除いた、すべての器具を整えて、聖別しました。」 (第二歴代誌29:19)

これも、ギリシア語の70人訳聖書では、“アポスタシア”です。それから、エレミヤ書でも、見つけることができます。エレミヤ書2章19節では、こう書かれています。

「あなたの悪があなたを懲らしめ、あなたの背信 (apostasy) があなたを責める。」 (エレミヤ2:19) 彼はここを、主からの脱落 (fallingaway) として、背信 (resistance) 」と訳しています。そして、興味深いことに、70人訳聖書には、元々は外典がありました。聖書ではなく、歴史的書物です。マカバイ記第一では、2章15節に、“アポスタシア”という単語が、当時、用いられていたとあります。70人訳聖書が書かれたのは、紀元前200年で、そこにはこうあります。

「アンテオケス王から遣わされた者たちが来て、彼らにモディンの町に逃げるよう強いて、いけにえを捧げ、香を焚き、神の律法から離れる (depart) ようにしました。」

ここで再び、少なくとも70人訳聖書では、ギリシア語のこの言葉が、どう用いられているかが分かります。それからギリシア語新約聖書でも。皆さん、それだけでなく、ギリシア語の文献でも、リデル＝スコット古典ギリシア語辞典で、アポスタシアという単語を見ると、最初の定義は、反乱、離脱となっています。まるで、ここでも、真理があり、それに背を向けて離れ去る、という感じです。さて、離脱、出発 (departure) も間違った、悪い訳というわけではありません。それは素晴らしい単語で、別の訳文で、別の箇所使われています。しかし、出発 (departure) は、「リデル＝スコット古典ギリシア語辞典」で2番目の定義です。ランプの教父ギリシア語辞書も、この単語を反乱、脱会と定義しています。さて、この聖句の文脈を見ました。アポスタシアが、他の箇所使われているのを見ました。それから、面白いのは、

「C. ウルガタ訳聖書のラテン語の単語”Dissessio”」

ウルガタ訳聖書のラテン語の単語、“Dissessio”です。これは、イエスの数百年後の、ラテン語の訳文です。面白くないですか？彼らはこの“Dissessio”という単語を使っており、これは、ラテン語では、自発的な行動で、「～から離れる」という意味です。「～から離れる」。「去る」という意味です。これは、受動的な意味ではありません。携拳がそうであるように。携拳の概念は、私たちが生活していて、ブン！と、突然、取り去られるのです。それは、必ずしも、私たちが自ら行うものではなく、これは、私たちに対して起こるものなのです。ですから、この単語は、受動的というより、はるかに能動的に思えます。ウルガタ訳聖書でも、この単語が使われているのです。もちろん、“Dissessio”は使徒の働き21章21節で、ギリシア語の「背教」として使われています。そして、また、ここでも使われています。

「D. 初期の英語訳」

D. キング・ジェームズ版よりも古い初期の英語訳。キング・ジェームズ版は、最初の英語版、最初の主な英語版の聖書ですが、その版では“fallingaway”という単語を使い、「確立された教えに逆らう」という意味をあてています。そして、なるほど、これらの英語訳文は、確かに“departure”という単語を使っています。例えば、ジュネーブ聖書とか、それから、キング・ジェームズ聖書以前の多くの聖書も、“departure”という単語を使っていました。そして、ここが携拳を指すと信じている人たちは言います。「ほら、ここを見てください。これらのキング・ジェームズ以前の英訳の聖書は、実際に“departure”を使っています。」でも、面白くないですか？先ほど言った通り、ジュネーブ聖書が、その一つで、実は、ジュネーブ聖書には注釈があり、もちろん、私もそれを読みましたが、皆さんも、実際に見れば分かります。ジュネーブ聖書には注釈があるんです。横の注釈に、こうありました。「これを翻訳した、当時の信者達は、“departure”を“fallingaway”と理解していた。」彼らは、間違った単語を使ったわけではなく、離れる (departure) は、

正しい言葉です。「正しい教えから自発的に離れる (departure) 。」という事で、これらが、私が指摘したかった事柄で、これが、大いなる背 (apostasy) だと私が信じる理由です。なぜ、私は、この事にこれほど時間を使ったのでしょうか。何がかかっているのでしょうか。

さて、ここで、私の車のオイル漏れに戻りたいと思います。私たちは、背教があり、人々が信仰から離れていった、と常に言う事が出来ました。私たちの誰もが、こんな人を一人は知っているでしょう。素晴らしいスタートを切り、そして歩み、それが突然心を変えて、そこから外れて、悪魔が種を奪い、或いは、良い土地に撒かれなかったのか、何であれ、そして、彼らは信仰から離れ、彼らは・・・一部の人たちは、完全に反逆します。私が思うに、私たちは既に始まりを見ているのです。ちょうど、私がオイル漏れが始まるのを見たように。しかし、私は、まだ大いなる背教の中にいるとは思いません。そして、私は、これら全ての前に、教会が取り除かれると心から信じています。私は、その日が来る信じています。教会が取り除かれると、引き止める聖霊の力が教会からなくなり、全ての社会階層から取り除かれ、そして世界中は私の車のように、偽の誤った教えに、一気に入って行くでしょう。そして、反キリストのための、完璧な演壇が敷かれるのです。彼は、全盛期を迎えるでしょう。そして、彼はエルサレムを占領するに至り、彼らが建てるエルサレムの神殿で、自分を神として立てるでしょう。そして、テサロニケ人は、自分たちが既に大患難の中にいると考え、パウロは言いました。「違いますよ、証拠があります。まだ大いなる背教は起こっていないでしょう？そして、反キリストの現れもまだです。」これらの出来事を理解するのは、非常に重要です。イエスでさえ、彼の公生涯の終わりに信者たちに警告されました。マタイの福音書24章です。画面に映したいと思います。こうあります。

「そこでイエスは彼らに答えられた。」 (マタイ24:4)

彼らが、終末の事を心配していたからです。

「『人に惑わされないように気をつけなさい。私の名を名乗るものが大勢現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わします。また、戦争や戦争のうわさを聞くことになりませんが、気をつけて、うるたえないようにしなさい。そういうことは必ず起こりますが、まだ終わりではありません。民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起こります。しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりなのです。』 (マタイ24:4-8)

主は続けて言われます。9節です。

「そのとき、人々はあなたがたを苦しみにあわせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。そのとき多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎みあいます。」 (マタイ24:9-10)

いいですか？

「また、偽預言者が大勢現れて、多くの人を惑わします。不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷えます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証され、それから終わりが来ます。」 (マタイ24:11-14)

私は、イエスは、これを、あらゆる地域の人々に向けて語っておられると信じます。使徒たちや、私やあなたに向けてだけではなく、世界中に向けて。聖書は、大患難時代にあっても、保たれるだろうと思います。聖書は大患難時代にも読まれ、教会は前もって携挙される。しかし、大患難時代に多くの救いが起こる。特にユダヤ人に…大患難時代にも救いがあるでしょう。私は、これは、大患難時代の終わりに起こると信じます。そのとき、教会があると私は信じているか？いいえ。なぜなら、主は、こう言うおられます。この期間の信者は、これらの事が起こるを見る、と。しかし、私たちは、パウロの教えから知っています。また、

イエスも後で言われました。携拳が先に起こる、と。なぜなら、もし、私たちが大患難時代に留まるなら、私たちも、パウロがテサロニケの人たちに言っている惑わしに陥ります。しかし、それらの出来事は起こります。そして見てください。大患難時代の間、「大いなる背教」です。彼は、見事に紐解いています。イエスは、大患難期に起こることのビジョンを見せてくれたのです。「読者はよく理解」するように。ところで、パウロは、テモテへの手紙第一1章で繰り返し言っています。

「しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。」（Iテモテ4:1）

パウロは続けます。ですから、皆さん、私の考えでは、「大いなる背教」が起こるでしょう。私は、今も、多くの偽の教えがあると信じています。私のオイル漏れみたいに。しかし、時が来て、教会が取り去られた後には、ブン！！偽の教えがはびこり、人々は、至る所でそれを信奉するでしょう。“信者”と呼ばれる人たちでさえも。今日でも、それが見られます。今日、どれほど多くの教会が、文化的な価値観や信条へ寝返っているか、見てください。聖書をとり上げて、一部を切り取って、好きな箇所だけとり上げて、都合の悪い箇所はとり上げずに、そして主張します。「ここが何を意味するか、誰も分からない。多くの解釈があって、皆が異なるように理解している。」道徳の問題や性別の混乱について、倫理的問題などに関して、これまでに無かったような事をする、大義名分を与えています。そして、イエスによって与えられる自由を経験する代わりに、今や私たちが拘束され、それを「自由」と呼ぶようになりました。まさに欺きです。ですから、皆さん。私は、大いなる背教が起こると信じています。そして、多くの人を、多くの偽の教えに導きます。

さて、三番目の要点に入りますが、ここで、私は、これは携拳であると立証したいと思います。

「引き止めるものが、前もって取り除かれる。」

“引き止めるもの”が、前もって取り去られる。さて、先ほどの続きの、テサロニケ人への手紙2章5節をとり上げてみましょう。

「私がまだあなたがたのところにいるとき、これらのことをよく話していたのを覚えていませんか。」

私は、彼のこの“ユダヤ的”な態度が好きなのですが、もし、彼がそこにいたら、彼がこう言うのが、目に見えるようです。「覚えていないのか？私が、まだそこにいた時に話したろう？なんで忘れてしまうんだ？なんで忘れるんだ？危険すぎる！」6節です。

「不法の者が定められたときに現れるようにと、今はその者を引き止めているものがあることを、あなたがたは知っています。」（IIテサロニケ2:6）

何が彼を引き止めているのでしょうか？誰が、不法の者を、引き止めているのでしょうか。それは何でしょうか？

「不法の秘密はすでに働いています。」（IIテサロニケ2:7）

もちろん私たちは、それを知っています。悪魔は、いつも空中の権威を持つ支配者で、彼は常に働いています。

「ただし、秘密であるのは、今引き止めている者が取り除かれる時までのことです。その時になると、不法の者が現れますが、主イエスは彼を御口の息をもって殺し、来臨の輝きをもって滅ぼされます。」

（IIテサロニケ2:7-8）

パウロは、誰が「引き止めるもの」であるかを特定していません。しかし、彼は、読者は当然知っている事を想定しています。6節で、あなたがたは引き止めているものがあることを知っている、と言っています。「知ってますよね？そのことについて話しましたから。」悪魔を引き止められる程の強い力とは何でしょうか？悪魔はとても強いのです。悪魔が、どれだけ操っているか見てください。国家、指導者、教育システム、政治システム、社会システム。悪魔が、エンターテインメント業界をどう操っているか見てください。これについては、様々な見方が唱えられてきました。何人かの人たちは、ローマ政府が引き止めるものだった、と言います。ローマ政府は聖徒ではなく、度々、非常に異教的でした。あるいは、ローマ法でしょうか？あなたは、人間の政府が、本当に悪魔より力があると思いますか？それは計算が合いません。それは、文脈上、イエスの最終方程式に寄与しません。ある人たちは、それは福音伝道だと言います。確かに、福音伝道は、引き止める力の一部でしょう。でも、それだけでは、単なる手段にすぎません。しかし、私は実際に引き止める者、人物を探しているのです。ある人たちは、それは、目に見えない悪魔への縛りだと言います。しかし、誰からの？何が？ある人たちは、それはユダヤ人国家だと言います。ちょっと待ってください。もしユダヤ人国家なら、不法の者は、大患難期の半ばにユダヤ人国家を裏切り、悪魔は、イエスの再臨までは、彼らより力を持っている事が分かっています。しかし、これらの主張をすることが出来ます。でも、もし単純にこの事を見て、そして、聖書の他の聖句の文脈から見ると、引き止める者は聖霊だ、と言う方がより適切ではありませんか？この地上の、キリストのからだの中に住む聖霊です。この事を考えてみましょう。思い出してください。もし、神の御霊が、悪魔よりもっと強力で、それが信者の中に内住し、それは、あらゆる社会階層にまたがっています。軍隊、政府、教育システム、政治、お店、地域社会、家庭、信者は、あらゆる場所、あらゆる国、あらゆる言語環境、あらゆる社会階層にいて、社会に影響を与えているのです。福音を分かち合い、良心や価値観に従って投票し、教育システムに対して、何が最善であるかアドバイスをし、金融業界の人に、何が最善であるかアドバイスをします。信者の人々は、あらゆる社会階層にいます。もし、それが取り去られたら、ポツといなくなれば直ちに大いなる背教が起こるのが見えるでしょう。私が信じるに、聖霊が内住する教会、聖霊がキリストのからだを用いているその同盟が、引き止める者です。パウロは、テサロニケ人への手紙第一で語ったことを、単純に繰り返しているのだと思います。「教会は取り去られなければならない。」大いなる背教の前、そして、不法の者が現れる前に。

「ただし、秘密であるのは、今引き止めている者が取り除かれる時までのことです。その時になると、不法の者が現れますが、主は御口の息をもって彼を殺し…」（Ⅱテサロニケ2:7-8）

私は、この事にワクワクしています。なぜなら、もしこれが真実なら…私はそうだと心から信じていますが、とても多くの偽の教えが現れるでしょう。それは、常にありました。しかし、次に期待されるのは、取り除かれることです。私たちは、ただイエスに向いているべきです。今、そして空中に。なぜなら、イエスが来られたら、全ての信者が地上から取り除かれます。軍隊には、もはや信者はいなくなり、政治家には、もはや信者がいなくなり、医療機関には、もはや信者がいなくなり、金融産業には、もはや信者がいなくなり、いくらでもリストは続きます。ポツ！みんな、いなくなるのです。これで、その時、なぜ、大いなる背教が起こるか分かるでしょう。人々は、何でも受け入れるでしょう。絶望的になるのです。彼らは、カリスマ的で、慰めを与えてくれる、キリストに似た人物に付いていくでしょう。だから、私たちは、不法の者を“反キリスト”と呼ぶのです。「不法」です。何でもオッケーですから。もし、あなたが、このように生きたいなら、素晴らしい。あのように生きたいなら、それも素晴らしい。あなたは、自分の人生を思い通りにすれば良い。私を崇める限り・・・不法の者。

さて、四番目の要点に移って、

「欺きの背後にある力は、実際に悪魔自身によって指揮されている。」

最後の結論です。四番目。「欺きの背後にある力は、実際に悪魔自身によって指揮されている。」さて、9節をとり上げてみたいと思います。聖句の文脈が、本当に理解できると思います。

「不法の者は、サタンの働きによって到来し、あらゆる力、偽りのしるしと不思議、また、あらゆる悪の欺きをもって、滅びる者たちに臨みます。彼らが滅びるのは、自分を救う真理を愛をもって受け入れなかったからです。」（Ⅱテサロニケ2:9-10）

拒絶があり、背き（rebellion）がある。そうですね？「それで神は、惑わす力を送られ、」なぜなら、彼らを選択したからです。「彼らは偽りを信じるように・・・」（Ⅱテサロニケ2:11）ローマ人への手紙が告げる通り、「引き渡されました。」（ローマ1:24）「それは、真理を信じないで、不義を喜んでいたすべての者が、さばかれるようになるためです。」（Ⅱテサロニケ2:12）

これらのことばを見れば、大いなる背教という文脈に、当てはまります。引き止める者が、取り除かれた後で、彼は、望むことを何でもできるようになります。彼は不法の者で、彼は、望むことを何でもします。誰が、この人物を統制するのでしょうか？彼は自分自身を統制し、そこに限度はないのです。さて、一つの疑問について話したいと思います。私は、「スピンする疑問」と呼んでいます。私たちは、真理があり、嘘がある、という事を知っています。では「真理をどう定義するか？」と聞かれたら、何と答えますか？もし「嘘をどう定義するか？」と聞かれたら、何と言いますか？真理とは、私が見る限り、後で聖句を見ますが、皆さんも、既に考えているかも知れませんね。ヨハネの福音書14章の聖句です。しかし、真理とは現実です。真理とは、神の存在、神が行い、明確に示されたもの、全てであって、それは、神のことばです。それは現実であり、それは本物です。嘘は、現実ではありません。幻想であり、人々が信じたいと思うものを、否定する者たちによって、作りあげられたもの。嘘のせいで、多くの依存が起こります。「薬や、アルコールを飽きるほど摂取したら、現実から逃れて、平安を得ることができます。現実から逃避したい、と思うのなら…、痛み、もがき、などの現実から、逃れたいなら…」私たちは、皆、人生の中であらゆる過程を通ります。しかし、真理こそが現実です。

皆さん、「鏡の家」に行ったことがありますか？いくつかは波打っていて、鏡に映る自分の姿を見ると自分が、本当に、巻き込まれるように見えます。ある鏡を見ると、自分が太っているように見え、ある鏡を見ると、細くなったように見えます。私が、17年間牧師を務めた教会では、一つの集会場のトイレの鏡が凹面だったんです。それは、見ていて楽しい鏡でした。なぜなら、鏡を見るたびに、自分が細く、背が高く見えるのです。そこで手を洗ってから、鏡を見ると、自分が素晴らしく見えるのです。自分がスマートに見え、自分がカッコよく見えるのです。しかし、それから、動画の制作や、他の伝道のために、プロモーション・ビデオを作成して、そして、動画に映っている自分を見ると、ぼっちゃりした頬っぺたが見え、現実を見ます。私は現実が嫌いです。だから、何とかしたい、という気持ちに駆られます。或いは、私はいつでも現実から逃避して、その鏡を見る事も出来ます。そこには、私の偽の姿があるのです。これは、誰もが持っている誘惑で、反キリストは、偽の現実を提供します。それらは真実に見え、つじつまが合う。でも、それらは現実ではありません。真理ではないのです。

それで、結論として、皆さんが考えられるように、いくつか聖句をとり上げさせてください。多くの方が、携挙の前の今でさえ、真理から離れて正しい健全な教義に背いている事を、私たちは知っています。そして、背教は、これまでもいつも起こってきたと容易に結論づける事が出来ます。もちろん、常に起こって来ました。聖書は、非常に早い時期、1世紀に、その事について語っています。しかし、聖書は「大いなる背教」が起こると述べていると私は信じ、お伝えます。教会が取り除かれた後、引き止める者がなくなり、これまでとは比べものにならないような背教が起こります。獣の印が登場し、この印がないと、物を買う事も買えません。そして、全ての方が、それを受けよう要求され、受けなければいけません。何を食べ、どこに住み、何をすることも、反キリストと彼の教えを受け入れない限り、社会参加できません。この圧力を想像できますか？皆さんに、このような状況に陥ってほしくないのです。あなたは、神の真理を拒否してきたかも知れません。皆さんに、聖書を読んでほしいのです。そしてイエスとの関係による、永遠のいのちの贈り物を、今、受け入れてほしいのです。なぜなら、大いなる背教は、本当に恐ろしいものになりますから。クリスチャンは、選り分けられるのです。私たちは、ヨハネの黙示録を読んで、それを知っています。それは、全面戦争で終わるのです。ヨハネの福音書14章1-7節で、イエスは語られました。

「『あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんあります。もしそうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。わたしがどこに行くのか、その道をあなたがたは知っています。』」（ヨハネ14:1-4）

5節に行きます。

「トマスはイエスに言った。『主よ、どこへ行かれるのか、私たちには分かりません。どうしたら、その道を知ることができるでしょうか。』」（ヨハネ14:5）

ここは、私が聖書の中でも、好きな聖句の一つです。

「イエスは彼に言われた。『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになります。今から父を知るのです。いや、すでにあなたがたは父を見たのです。』」（ヨハネ14:6-7）

なぜでしょうか？なぜなら、彼が神だからです。彼が、真理であり、道であり、いのちだからです。彼が、あなたの人生の戸を叩いているのです。そして、入っていいかどうか、尋ねているのです。皆さん、それが、聖霊であり、彼の御霊があなたの中に入り、そして、あなたに救済を、救いを、もたらすのです。あなたの罪を赦し、彼の子としての地位を与えてくださいます。私は、第二テサロニケ人への手紙2章の、この聖句が大好きです。こうあります。

「今はその者を引き止めているものがあることを、あなたがたは知っています。」（Ⅱテサロニケ2:6）

それは、主題として扱われています。そして、後に、7節では、「今、引き止めている者が…」これは、代名詞です。「取り除かれる時までのことです。」（Ⅱテサロニケ2:7）“彼”とは、引き止める者であり、彼とは聖霊であり、彼とはイエス、彼は道であり、真理であり、いのちです。彼は、唯一です。そして、これで、数ある偽の教えを区別します。彼が、父への唯一の道です。

ここで、励ましを一つ、付け加えたいと思います。そして、終わりにします。第一テサロニケ人への手紙4章の時代に戻ってみましょう。パウロは、彼らがこれを知っている事を、知っていました。なぜなら、パウロは彼らに手紙を書き、彼らと会話していますから。

「眠っている人たちについては…」（Ⅰテサロニケ4:13）

私は、パウロの、亡くなった信者への呼び方が好きです。死んだのではなく、眠っている。彼らは、眠っているんです。そして、起き上がります。

「あなたがたが、望みのない他の人々のように悲しまないためです。イエスが死んで復活した、と私たちが信じているなら、神はまた同じように、イエスにあって眠った人たちを、」イエスは道だからです。「イエスとともに連れてこられるはずです。」（Ⅰテサロニケ4:13-14）

15節です。

「私たちは、主のことばによって、あなたがたに伝えます。生きている私たちは、主の来臨まで残っているなら、眠った人たちより先になることは決してありません。すなわち、号令とみ使いのかしらの声と神の

ラッパの響きとともに、主ご自身が天から下ってこられます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、」（1テサロニケ4:15-16）

亡くなった信者の全てが、最初に携挙されるのです。「それから、」17節です。

「生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、」

引き上げられるのです。彼らと一緒に雲の中に携挙され、

「空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることになります。ですから、これらのことばをもって互いに励ましあいなさい。」（1テサロニケ4:17-18）

彼らは、何かの理由で、これらの事を忘れたのです。彼らは忘れていなかったのかも知れませんが、自分達は逃してしまったと考えました。でも、逃していませんでした。その証拠は、彼らは、大いなる背教も、反キリストも目撃していなかったからです。ですから、逃したはずがありません。皆さんの内の何人かは、何かを逃したと考えるかもしれませんが、イエスが、真理であり、道であり、いのちである、という事を逃さないでください。逃さないでください。それが、あなたが逃してはいけない事なのです。祈りで締めくくりましょう。今、これを見ている皆さん、ぜひ、この祈りを一緒に祈ってください。

主イエス様、今、私を清め、私の罪をお赦してください。あなたの赦しと平安が欲しいのです。お願いします。そして、私の救い主として、主として、私の人生にお入りください。どうか、私を真理、真実へと導き、お示してください。イエス・キリストの御名によって。アーメン。

皆さん、いつでも私たちのウェブサイトを訪ねてください。ビホールド・イスラエル、BeholdIsrael.orgです。フェイスブック、ユーチューブ、インスタグラム、ツイッターで繋がれます。私たちは、いつも聖書の教えや、神のことばを広めています。皆さんを整えて、励ますための手段となれば幸いです。感謝します。皆さんに神の祝福がありますように！



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.06.25 (Thu)